

令和3年度 川崎市立日本民家園事業計画・評価シート

■評価

つぎの3段階とする。

A: 目標を充分達成し成果を上げている

B: 目標を概ね達成している

C: 目標を達成しておらず改善が必要である

■今年度の重点目標

- ・感染症対策の徹底
- ・耐震補強工事の推進
- ・園路排水等園内環境整備の推進

項目	令和3年度実績	令和2年度実績	令和元年度実績	平成30年度実績
総入園者数	101,664人 (目標達成率 73.7%)	68,267人 (目標達成率 50.2%)	96,237人 (目標達成率 72.9%)	111,841人 (目標達成率 86.0%)
有料入園者数(有料率)	47,578人(46.8%)	33,355人(48.8%)	44,174人(45.9%)	47,994人(42.9%)
外国人入園者数	1,713人(前年比107.3%)	1,597人(前年比 23.3%)	6,847人(前年比 95.2%)	7,191人(前年比 113%)
総入園料収入	19,000,880円	13,210,760円	16,887,600円	18,634,800円
WEBサイトアクセス数(英語版)	626,100件(11,770件)	478,750件(11,261件)	607,819件(11,396件)	640,151件(11,426件)
来園学校数	135校	76校	132校	192校
伝統工芸館藍染体験参加者数(伝統工芸館事業収入)	1,162人 (4,662,743円)	991人 (3,615,572円)	1,956人 (4,126,668円)	3,029人 (4,659,645円)

令和3年度

1 保存・研究・展示・普及活動

(1) 文化財の保存・調査研究の推進

現状：25件の文化財建造物を移築復原し、長期計画を立てて補修工事を実施している他、日常的な維持管理業務として燻煙と清掃を行っている。総合防災事業は、消火設備・防犯設備の機器更新、耐震補強工事が進行中である。資料の整理・研究活動については、建築分野では大岡實博士文庫の目録刊行が終了し、資料の保管状況の改善の検討、耐震補強工事報告書の刊行を進めている。民俗分野では引き続き暮らしと家をテーマに調査を実施、報告書の刊行を進めている。

実施目標	中期目標(2年、R3まで)(目標水準)	令和3年度年度計画(目標水準)	令和3年度実績	今後の課題	R3 評価	中期 評価
1文化財建造物維持管理の推進	清宮家住宅の屋根替え(工事完成まで) 広瀬家住宅・太田家住宅敷地舗装工事(完成まで) 文化財建造物の適切な保存管理の推進(破損箇所随時) 展示古民家の周辺環境の改善(園路排水整備・支障木管理の推進)	鈴木家住宅屋根替え工事(完成まで) 信越の村園路舗装・排水整備工事(2年計画初年度分まで) 沖永良部の高倉屋根替えその他工事設計(完成まで) 支障木管理(3年目) シロアリ調査(2年目)	鈴木家住宅屋根替え工事完成 水車小屋から佐々木家前まで園路・排水整備工事、プロジェクトマップングのため年度繰越 沖永良部の高倉屋根替え工事設計完了 北村家周囲支障木管理完了 シロアリ調査実施	整備した園路の維持方法の確立 樹木のナラ枯れ対策	A	A
2総合防災事業・耐震補強工事の推進	太田家耐震補強工事(完成まで) 作田家耐震補強設計(完了まで) 既存設備(防災・三澤免震)定期点検・補修(各1回)	太田家耐震工事(2年計画初年度分まで) 作田家耐震工事(補助金申請準備、予算確保まで) 井岡家・山田家耐震診断(完成まで) 三澤免震装置定期点検(1回) 消防設備点検(2回) 監視カメラ点検(1回)	太田家耐震工事初年度分まで完成 作田家耐震工事補助金申請、予算確保 井岡家・山田家耐震診断完了 三澤免震装置・消防設備・監視カメラ点検完了	工事車両のアクセス路の確保 国指定以外の建造物に対する耐震工事の補強水準の検討	A	A
3 収蔵資料の整理・調査研究の推進と成果の公表	大岡資料整理(保管状況改善) 民俗資料のデータ化推進(収蔵品目録未収録資料) 民家園叢書継続刊行(山下耐震補強工事報告冊刊行) 「暮らしと家」調査(報告書年1冊刊行) 本館地下収蔵庫の燻蒸実施(2年に1回)	大岡資料目録収録分の保存環境改善(保存箱交換) 収蔵品目録未収録民俗資料のデータ化(入力完了まで) 山下耐震補強工事報告冊刊行準備(予算要求まで) 「暮らしの家」調査(聞き取りまで)	大岡資料保存環境一部改善(保存箱、封筒を中性紙のものに交換開始) 収蔵品目録未収録民俗資料のデータ入力完了 山下耐震補強工事報告予算確保 「暮らしの家」調査は実施できず 伊藤家新規資料受入 虹ヶ丘小学校収蔵資料整理実施 他施設への長期貸出資料書類整備	耐震工事中の資料保管場所の検討	B	B
評定意見	文化財建造物維持管理および総合防災事業・耐震補強工事に関しては目標を十分達成している。園路・排水整備工事の繰り越しは、プロジェクトマップングという新しい展示公開手法の試行に伴う日程調整の結果であり許容できる。一方で、園路整備に関しては仕様(耐久性や見栄え)や工事車両アクセスと景観バランスに関して今後も検討を加えていくこと、樹木のナラ枯れ対策と樹林景観に関しても注視すること、茅葺き劣化への対応は出来るだけ早期に対応していくべきこと、が課題として指摘された。収蔵資料の整理公開・調査研究と成果発表は、概ね目標に達している。収集民家以外の旧家における聞き取り調査(「暮らしの家」調査)はコロナの状況で延期されたが、伊藤家新規資料受入や小学校の郷土資料室収蔵資料整理、および他施設への長期貸出資料の書類整理などを行っている点は評価できる。市民ミュージアムが休館している今、民家園への期待も大きいと考えられるので、資料の収集・整理・公開(連携公開含む)は少しずつでも行ってほしい。					

(2) 展示の充実

現状：25の文化財建造物を野外展示し、それを補うために本館に常設展示室と企画展示室を設置している。各古民家では地域の民具や年中行事の展示を行っている他、囲炉裏での火焚きや生活用具の製作風景、さらには屋根の葺替え工事や耐震補強工事なども展示の一環としてとらえ、作業風景を見せるための工夫をしている。常設展示室では、園全体の導入として日本の民家建築の基本を展示している。企画展示室では、民俗や建築をテーマに年2回企画展を開催し、合わせて関連事業を実施している。展示に際しては解説に英文を併記している他、スマートフォンを利用した4カ国語音声ガイド(日英中韓)を導入し、外国人向けのサービスにも力を入れている。また、敷地内の環境は展示の一環として整備を進め、民家の旧所在地に合わせた植栽や、景観にふさわしい案内板の設置を行っている。

実施目標	中期目標(2年、R3まで)(目標水準)	令和3年度年度計画(目標水準)	令和3年度実績	今後の課題	R3 評価	中期 評価
1常設展示及び関連事業の充実	音声ガイドの利用拡充および保守(毎年保守委託) 古民家内展示整備(視覚に訴える展示の検討) 建造物解説の充実(古民家めぐり年24回、大規模工事ごとに見学会開催・解説パネル設置) 博物館にふさわしい植栽の整備(生田緑地の植栽管理計画の中に位置づけ)	音声ガイド保守、利用方法広報(完了まで) 展示民具に使用方法がわかる図版入りパネル設置(10枚) 年中行事展示パネル・解説シートリニューアル(完成まで) 民家解説実施(24回) 防火訓練に連動した解説会実施(1回) 工事解説パネル設置(葺き替え、耐震) 園内の展示点検、改善(体制確立まで) 古民家非公開エリアの動画配信(3本) 展示・ワークショップに使用する植物種整備(ニワトコ・タデ藍の育成管理、調達)	音声ガイド保守・広報、団体貸出用タブレット購入、WEB版制作 民具の使用方法がわかる図版入りパネルを企画展解説パネルとして設置(6枚) 年中行事展示パネルリニューアル(解説シートは配布中止につきリニューアルなし) 民家解説21回実施 防火訓練に連動した解説会できず 鈴木家・太田家工事解説パネル設置、太田家については解説シートも作成 園内の展示点検改善、全スタッフで継続的に実施 老朽化した解説板・案内板修理(6枚) 古民家非公開エリアの動画配信できず 展示に使用するニワトコを園内外にて調達および栽培継続、ワークショップに使用するタデ藍栽培実施	古民家内の展示充実 展示の一環としての植栽整備	B	B
2企画展示及び関連事業の充実	民家博物館として、特性を活かした話題性のある企画展示開催(年2本)	新企画展2本開催(図録刊行まで) 企画展示計画作成(令和6年まで) 一般向け企画展示解説(10回) 子ども向け企画展示解説(12回) 企画展ワークショップ(1回) 企画展におけるパネル類・配布物の日英併記(各企画展) 過去の企画展示概要のWEB掲載(図録刊行分を優先的に) 民家園だよりバックナンバーのWEB掲載(企画展特集号を優先的に)	企画展「二足のわらじはなぜわらじ？」 「病と向きあう」開催、図録刊行、解説日英併記 企画展示計画作成 一般向け企画展示解説10回開催 子ども向け企画展示解説12回開催 企画展ワークショップ「暑さ寒さの工夫をさぐる」開催 「病と向きあう」展開連講座中止 過去の企画展概要のWEB掲載できず 民家園だよりWEB掲載	展示スタッフの安定的雇用	A	A
評定意見	年間を通して自主企画展を開催し、民具の解説パネルの設置や展示解説を実施するなどして来園者へのきめ細かい対応がされていることは評価できる。しかし、計画通りに実施できなかった事業や進捗の遅い事業もみられる。防火訓練に連動した解説会は準備が間に合わず実施できなかったとのことだが、防災に関わる事業は重要であり、今後は民家園ならではの設備を使用した訓練なども実施してほしいところである。また、各民家の旧所在地の景観再現は、提案から時間が過ぎたが実現に至っていない。浸透交雑を引き起こすリスクを避けつつ、旧所在地の本質的な再現となるよう十分に検討を重ねながら進めてほしい。 展示の充実に向けて非常に努力されているが、いまの人員配置で計画どおりに事業を実施していくことは、(特にコロナ禍の現状においては)難しい局面もあると推察される。今後、川崎市の文化行政のなかで日本民家園の存在意義は大きいものとなる。日本民家園は川崎市の一文化施設にとどまらず、関東地域ひいては日本の文化財活用拠点として位置付けられてもおかしくない。まずは、地元で民家園があることを誇りに思ってもらえるよう、地元住民が関わられる事業展開や外に発信していくことも視野に入れて活動してほしい。今後は、機会をとらえて予算面や人員面での改善もアピールできると良い。					

(3) 教育普及活動の充実

現状：教育普及活動として学習講座・体験講座等を実施、特に子どもや親子向けの行事、当日自由参加型の行事に力を入れている。また施設の特長を活かし、古民家の旧所在地と連携した事業にも力を入れ、各地の芸能公演や物産展などを行っている。この他、学校との連携を進め、小学生の体験学習や中学生の職業体験の受け入れを行っている。また、炉端の会・民具製作技術保存会は民家園の教育普及活動を支え、協力者会議を開催して事業運営の改善を進めている。指定管理者は伝統工芸館の充実を進めている他、さまざまな自主事業を行っている。

実施目標	中期目標(2年、R3まで)(目標水準)	令和3年度年度計画(目標水準)	令和3年度実績	今後の課題	R3 評価	中期 評価
1 各種事業(講座・ワークショップ・催事)の充実	当日受付型・自由参加型事業の充実(年平均25回) 生田緑地他館等との連携事業の充実(年平均2回) 旧所在地交流事業の実施・拡充(4自治体) 伝統芸能公演での外国人向け解説の実施(年2回) 市民団体との連携による昔話公演(30回)	体験講座の実施 当日参加型体験事業(昔遊び、綿の実、納涼、職人体験、小正月) 科学館との連携事業実施(七夕、月見) 旧所在地交流事業の実施(南砺市、甲州市) 感染防止に配慮した伝統芸能公演の開催(浄瑠璃、歌舞伎) 公演動画の公開(浄瑠璃、歌舞伎) 昔話公演	体験講座はぞうり・釜敷き・しめ縄以外中止 昔遊び・職人体験は中止、納涼民家園(井戸汲み体験のみ)・民具着用体験は実施、お蚕様の絹糸・綿の実から糸まで・小正月行事は実演として開催 こどもまつりにて子供のための民家解説(2回)・端午の節供解説会を実施 七夕・月見は昼間のみ開催、月見については科学館と解説動画制作・公開 南砺市、甲州市交流事業は中止 浄瑠璃公演は中止、歌舞伎公演は定員を減らして開催、浄瑠璃・歌舞伎の公演動画を制作・公開 昔話公演は中止	感染症対策及び感染症流行下での開催方法の検討	B	B
2 学校連携の充実	学校団体の体験・見学(年間80校) 職業体験・総合学習等のプログラム受け入れ(年10校) 新学習指導要領対応プログラムの実施(運用開始) 学校郷土資料室等整備支援(メンテナンスの実施)	感染症流行下での小学校向け学習プログラム・見学の受入(90校) 学習プログラム事前学習用動画作成(完成まで) 職場体験・総合学習等のプログラム受入 博物館実習、実測実習等大学の利用受入 多摩区大学連携プログラムの受入(1校) 学校郷土資料室等整備支援(2校)	小学校事前学習用動画制作・公開 小学校112校受入、事前学習用動画を活用したプログラム実施 レクチャー実施校対象の事前事後学習等に関するアンケート実施 中学校職業教育1校協力 大学博物館実習11校12名受入 大学実測実習4校7件受入 大学博物館課程課外授業4校5件受入 多摩区大学連携プログラム1校受入 学校郷土資料室等整備2校支援	感染症流行下における学校団体の受入方法の検討、職員の感染防止対策	A	A
3 市民活動団体との連携	炉端の会、民技会との連携の強化および両者との協力者会議による運営改善(協力者会議年1回) 生田緑地マネジメント会議・自然環境管理保全会議との連携(年7回会議出席)	協力者会議開催(1回) 炉端の会入門講座開催(1回) 民技会新人研修(1回) 生田緑地マネジメント会議・自然環境管理保全会議への出席・意見聴取(7回) 感染症流行下でのボランティア運営マニュアル作成(完成まで)	協力者会議開催せず 炉端の会入門講座開催せず 民技会新人研修開催せず 生田緑地マネジメント会議・自然環境管理保全会議計5回出席 感染症流行下における炉端の会有志の活動の試行、活動方法に関する通知文作成	感染症流行下におけるボランティア・市民団体の活動方法検討	C	C

4伝統工芸館・自主事業の充実	本藍の継続的使用のため複数スタッフの技術向上(研修機会確保) 自主事業の充実(年5回以上) 外国人対応の充実(メールによる予約受付)	染織技術の研修受講(1回) 絞り染め、型染め講座開催(5回)と更なる内容の充実 出張ワークショップ(2回) ミニ展示開催(5回)と更なる内容の充実 展示品の販売(Tシャツ他) 草木染めと藍染めの新商品の開発(5点) プロジェクションマッピング(約1か月) 自主事業イベント開催(ペーゴマ大会、紙すき体験、大きな兜づくり) 古民家カフェ(新事業者による運営開始)	染織技術の研修コロナのためできず 絞り染め、型染め講座計5回開催、内容工夫 出張ワークショップ2回実施 ミニ展示5回開催、内容工夫 Tシャツ他展示品販売 新商品計15点開発 プロジェクションマッピング計31日開催 ペーゴマ大会・紙すき体験・大きな兜づくり等自主事業イベント計17回開催 新事業者による古民家カフェ営業開始、計45日開店	感染症流行下におけるイベント開催時の防疫対策強化	B	B
評定意見	<p>小学校の社会科見学受け入れに際し、園が制作した動画を事前学習に活用してもらい取り組みは高く評価できる。一歩進めて、中学校・高校との連携も考えられると良いだろう。炉端の会や民具製作技術保存会など、ボランティアや市民団体の活動は民家園にとって非常に重要であり、民家園に継続的に関わって活動する人の育成など、今後期待されていることは多々ある。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために制約はあるが、今少し活動を広げていく方法を模索してほしい。そのためにも、園が十分な対応を取れるような人員体制の充実が必要であろう。教育普及事業に関しては、小学校に限らない学校連携、生田緑地全体での取り組み、コロナ禍におけるボランティア団体の活動の在り方について、さらに検討を進めてほしい。</p>					

2 運営・管理活動

(1) 博物館経営の強化

現状：平成25年度より指定管理者制度を導入し(5年毎に更新)、維持管理(文化財を除く)・広報業務を指定管理者が担っている。市の職員、指定管理者の職員、いずれも資質向上のため各種研修への参加を促している。また、来園者数向上を目標に、リピーター確保のための工夫を重ねている。

実施目標	中期目標(2年、R3まで)(目標水準)	令和3年度年度計画(目標水準)	令和3年度実績	今後の課題	R3 評価	中期 評価
1運営体制の整備・研修の充実	民家園運営基本計画の策定(策定まで) 研修機会の確保(市職員年1回以上) 事業評価の実施と活用(毎年実施・公表)	運営基本方針の策定推進(課題整理まで) 運営基本方針策定に伴う園路整備、植栽整備、サイン整備計画策定(完了まで) 庁内外の研修への参加(市職員1回以上) 新規採用者の園内研修実施(随時) 事業評価の実施と活用(実施と公表) 次期指定管理に向けた準備(庁内会議での仕様検討まで) 受付マニュアルと事例集の整備(完成まで)	運営基本方針の策定に向けた課題整理、園路整備・植栽整備・サイン整備等ハード面での計画作成 それぞれの業務に応じた庁内外研修のべ16回参加 指定管理・警備の新規採用者を対象とした園内研修3回実施 事業評価の実施と公式サイトでの公表 次期指定管理に向けた仕様書の作成と指定管理料の積算 マニュアルとして「民家園ルールブック」を作成、共有フォルダへの事例の蓄積	川崎市文化財保存活用地域計画の策定に合わせた運営基本方針の策定	B	B
2広報の強化	民家園・生田緑地の効果的情報発信 英語HPの情報充実 オリンピック・パラリンピックに向けた広報の充実 生田緑地他施設・他局・観光協会・地元商店会・神奈川県等と連携した広報 SNS・指定管理者協力会社ルートを活用した広報の充実 SNSによる拡散を意識した演出	公式サイト・Twitter・YouTubeによる情報発信(日本語・英語) 動画も含めた公式サイトコンテンツ拡充(日本語・英語) 市や県の関係部署と連携したオリンピック・パラリンピックに合わせた広報 パラリンピック採火式に伴う広報 大型行事(プロジェクトマップ)に向けた広報	スタッフ各業務に応じたTwitterの毎日の更新 公式Youtubeチャンネル開設 芸能公演・体験学習事前学習教材・月見行事解説等動画の制作・公開、図録を翻訳しPDF版を無料公開、園長のページの新設等公式サイトコンテンツ拡充 パラリンピック採火式に伴う広報 プロジェクトマップに伴う広報 企画展示B1ポスター印刷、駅貼 Googleビジネス等を活用した来園者、来園予定者に対する動向調査の実施	コロナ終息に向けてのインバウンド広報強化 常設展示を中心とした園の魅力発信強化	B	B
評定意見	<p>民家園運営基本方針の策定に向けての準備が進められているが、当初目標の策定期間が先送りされたことで、時間的余裕が生じたのは好機といえる。有機的に関連する市の文化財保存活用地域計画において、民家園がその核の一つとなり得るようにすることもあわせて、多数の古民家を集めた極めて特色ある博物館に相応しい運営基本方針になるよう、良く練り上げていくことが期待される。</p> <p>市には、市立の博物館全体を見渡した総合的な政策の立案・遂行が期待されることから、各博物館間及び所管部局間の連携調整が密に行われるよう、働きかけることも検討すると良い。</p> <p>職員を積極的に研修参加に出す姿勢は評価できる。国や博物館関連団体が実施する博物館関係の研修や各種会合にも民家園職員が参加し、博物館をめぐる最新事情の把握や、他の博物館関係者との交流の機会を持ち、職員個人のスキルアップ、人脈の拡大に加え、研修の成果を民家園にフィードバックさせ、博物館としての能力・魅力の向上につなげるように、さらに務めることが望まれる。</p> <p>博物館法の一部を改正する法律(令和4年法律第24号)の主旨を踏まえ、従来の博物館の基本的機能に加え、新たに市役所内部の各部署や関連機関・団体とも連携し、文化振興、文化観光、地域の活力向上、街づくり等にも積極的に寄与していくことが望まれる。特に民家園自体が、文化観光の面で重要な資源になり得ることから、博物館としての基本的な活動は維持しつつ、市民・利用者により魅力ある存在となるような博物館事業の展開、広報・情報発信に努めること。</p> <p>博物館活動の安定的な維持発展のためには、腰を据えて業務に取り組める正規職員の定員増加が望まれる。現状、学芸員等の専門業務に携わる職務は、その欠を補うために複数の有期の職員が配置されているが、その採用に当たっては、博物館業務の継続性を維持し、業務の引継ぎが円滑になされるよう、雇用開始・満了の時期を調整する等の工夫も求められる。</p>					

(2) 利用者の利便性・安全性の向上

現状： 来園者サービス施設として救護室や授乳スペース等を整備、ベンチやテーブル等のリニューアルも進めている。また、バリアフリー化として古民家の敷居にスロープを用意、園路についても手すりの設置や一部土舗装化など対応を進めている。この他、来園者へのサービス向上のため、ショップの充実と窓口業務の改善に努めている。危機管理については各種防災訓練を実施、危機管理マニュアルを随時更新している。						
実施目標	中期目標(2年、R3まで)(目標水準)	令和3年度年度計画(目標水準)	令和3年度実績	今後の課題	R3 評価	中期 評価
1来園者サービスの向上	<p>飲食サービス提供の在り方検討 休憩スペース改修(露天の全ベンチ改修) 継続的な商品開発(毎年2点) バリアフリー環境の充実</p>	<p>本館電気その他設備工事(完成まで) 次期指定管理検討委員会で飲食サービスの在り方検討 露天ベンチの改修(腐朽したもの) 民家園の特色を活かした新商品・カプセルトイレの開発(5点) ネット販売の改善(運用開始まで) 坂道マップの増補(逐次) 園路の整備(水車小屋前から佐々木家) フリーWi-Fiエリア拡大(山下家・佐々木家)</p>	<p>本館照明・換気扇工事完成 飲食サービスは次期指定管理には盛り込まないことが決定 ベンチは改修できず カプセルトイレ新商品3点開発 ネット通販開始 坂道マップ改訂、公式サイトにて公開 水車小屋から佐々木家前まで園路整備工事年度繰越 山下家から佐々木家までカバーするフリーWi-Fiスポット整備、利用案内パネル設置 スマートフォン決済Emotによる生田緑地おでかけチケットの試験販売</p>	<p>老朽化したベンチ・四阿のリニューアル 休憩所屋根の増設</p>	B	B
2危機管理体制の整備	<p>園路危険箇所等整備による安全性の確保 危険箇所の点検、危機管理マニュアルの継続的増補、職員への徹底(毎年項目見直し、読み合わせ) 来園者と文化財の安全確保、案内等質の高い警備の実施(マニュアル作成) 防災訓練の実施(毎年4回) 災害発生時案内の多言語化(英文原稿作成)</p>	<p>園路危険箇所の点検・対応(逐次) 感染症対策の徹底継続と感染症対策を含めた危機管理マニュアルの増補(逐次) 各古民家に地震時の案内板設置(18棟) 新任警備員用マニュアル作成(完成まで) 防災訓練実施(年4回) 災害発生時の案内放送の多言語化(英文原稿作成) 災害発生時における公式twitterによる情報発信(日本語、英語)</p>	<p>伊藤家前スロープ等園路危険箇所竹垣修理、園路の陥没箇所の補修 感染症対策を含めた危機管理マニュアルアップデート 古民家18棟に地震時の案内板設置 新任警備員用マニュアル作成 防災訓練4回実施 災害発生時の案内放送、公式サイト、公式twitter用英文原稿作成</p>	<p>園路の安全・防犯対策として、手すりや柵の整備</p>	B	B
評定意見	<p>コロナ禍の下での民家園の事業運営には、感染対策の徹底や、一部事業の停止等、難渋な点も多いと察せられるが、予定された計画は、概ね達成されている。コロナ禍にあっても、野外博物館という強みがあり、来園者数もコロナ禍前の段階まで戻りつつある。民家園の特性を活かすことで、より広い層による民家園の利用につながるよう、一層努めることが望まれる。</p> <p>園路の整備は逐次実施されているが、喫緊の課題ととらえ、安全に園内を利用することができるよう、推進に努めること。また園路の工事は、来園者にも影響が大きいことから、施工時期は繁忙期を避ける等の配慮が望まれる。</p> <p>公金の扱いには適さない面があることも考えられるが、キャッシュレス化は時代の要請、社会の流れである。市でも、既に区役所窓口でのキャッシュレス決済が開始されている。民家園でも来園者サービスの一環として、キャッシュレス決済の導入・拡充につき、検討を進めることが望まれる。</p> <p>近年、想定外の規模の災害が頻発している中で、かけがえのない文化財建造物が集めてある場として、また利用者にも広く開かれた博物館として、安全・安心の確保は、何にも増して重要である。計画に沿った危機への備えはしっかり行われているが、危機対応策のアップデートと不断の訓練により、文化財の継承と博物館の機能の維持に、一層努めてもらいたい。</p>					